

2024年 1月 21日(日)

Zoom 事前申込制 1/19(金)まで



参加申込

ご登録のメールアドレスに、前日、参加用URLをお送りします。

<https://forms.gle/KKtphnfotuUh17Uh7>

## 第1部 9:30~12:00 日本宗教と翻訳

ジェシカ・L・メイン Jessica L. Main (ブリティッシュ・コロンビア大学准教授)

コクリン・メラニー Melanie Coughlin (カールトン大学講師)

「忠実な翻訳」とは何か

——氣多雅子『宗教経験の哲学』(1992)の英訳プロジェクト

コメント：氣多雅子 (京都大学名誉教授)

フロアとの質疑応答

## 第2部 13:00~16:00 日本哲学と翻訳

大橋良介 (京都工芸繊維大学名誉教授/日独文化研究所所長)

基調講演

翻訳の諸次元——文化のレベル・言葉のレベル・哲学のレベル

フォンガロ・エンリコ Enrico Fongaro (南山宗教文化研究所第一種研究所員)

翻訳の諸次元——日本とイタリアの場合

フェハーリ・フェリペ Felipe Ferrari (四日市大学特任准教授)

翻訳の諸次元——日本とブラジルの場合

パネル・ディスカッション

フロアとの質疑応答

各部 使用言語：日本語

司会：末村正代 (南山宗教文化研究所研究員)

# Japanese Religion & Philosophy and Their Translation 日本宗教・日本哲学と翻訳

南山宗教文化研究所主催で、「日本宗教・日本哲学と翻訳」を主題とする研究会が開催されます。現在、日本の宗教や哲学は、数多くの国で翻訳されています。たとえば、西田幾多郎の『善の研究』(一九一〇)には、七か国語(英中韓独西仏伊)の版があります。異なる時代背景や文化体系に置かれてきた言葉の意味が、完全に一致することはありません。翻訳の可能/不可能が交錯する現場では、新たな意味が絶えず模索され、創出され、それにもなつて文脈も緩やかに転調していきます。

今回は、日本宗教・日本哲学の翻訳に携わる先生方をお招きしてお話を伺います。

——翻訳は、原作の意味に自分を似せてゆくのではなくて、むしろ愛をこめて、細部に至るまで原作の言いかたを自身の言語の言いかたのなかに形成してゆき、その結果として両者が、ひとつの容器の二つの破片、ひとつのより大きい言語の二つの破片と見られるようにするのでなくってはならない。

W・ベンヤミン「翻訳者の課題」